

きずな



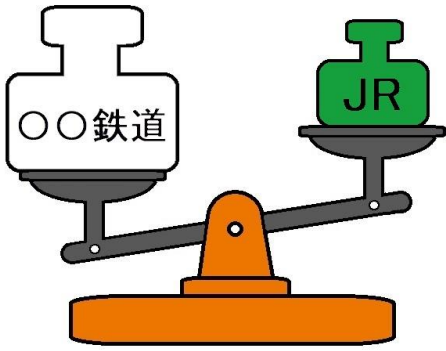
津田沼分会
No.51

2023・
11・14

発行責任者
鈴木 浩
編集・教宣

JRは働き甲斐無し？

分会内の駅から同時期に2名の若手社員が他の鉄道会社へ転職しました。一人はJRからの若年出向者、もう一人はJESSのプロパー社員です。出向社員がJRへ戻りたがらないというのはよく聞く話ですし、JRのみならず委託会社であるJESSでも若年離職者が増えています。



自分が働く会社が若手社員に見切りをつけられるのは悲しいものです。「ここよりマシな会社」を求めて転職するのだから。

労働組合加入率が2割を切り間違っていること、おかしいことを指摘できず窓口を閉め、その奥で行われている「企画業務」は社員への負担になってはいない

あわや人身事故

市川大野駅で深夜0時近くに酔客がホームから転落し、列車非常停止装置が扱われたものの間に合わず、侵入した列車が転落箇所を通り過ぎて停止した事象が発生しました。幸い、ホーム下の空間に転がり列車とは触れなかったため人身

のだろうか？ 結局は自分たちの首を絞め、離職者を増やしているのだとしたら本末転倒です。

名ばかりの社員代表を揃え、職場から労働組合を排除したいJR・JESSは現状をどう捉えているのだろうか？ 将来を担う若手社員が働き甲斐を感じられず離職していくのを望んではいないはずです。

事故には至りませんでしたが一入勤務駅のため運転士と二人で負傷者を探すことになりました。停止している車両の向こう側のホーム下は暗く、声かけても返答が無かったため、負傷者の捜索は時間を要しました。

ようやく当該旅客を探し出して救助し事務室に戻るとそこにいたのは券売機の呼び出しボタンを押し、叫びながら閉じた窓ガラスをたたき続ける別の酔客でした。新八柱駅からの応援は30分近く遅れた運転再開後の列車に乗車してくるため、結局は一人に対応せざるを得ないのが現状です。

要員削減を進め増えたのは一人勤務駅と遠く離れたところから電話越しに接客するサポートコール要員では以前よりでは何かあっても対応できることとは限られ、難しい判断や対応を強いられます。「猫の手」よりの手を求めています。



現場は後回し？

蘇我駅を含む京葉線内では車イス利用の際の相手駅との連絡はタブレットを使用していますが他の路線にも拡大導入されることになりました。今後は利用者自身が事前にアプリで利用の申し込みをできるようにすることですが、現場への説明より先にプレス発表されたものの具体的な内容は不明なままです。

今後勉強会などが行われますが普通列車に利用者が申し込むシステムは必要なのか？ 現場への負担が増えるだけなのではないのかなど多くの疑問点が解消できるのを望ますにはいられません。

◎津田沼分会定期大会

12月7日地本会議室
11時～

最大限の参加を！

千葉地本HP

